

令和元年度 一学期 終業式 式辞

四月に新一年生を迎えてから早くも四ヶ月がたち、五月には令和という新しい時代に入りました。そして、はや盛夏、明日からは待望の夏休みです。

皆さんにとって一学期はどうでしたか、今、静かに振り返って見て下さい。この四ヶ月、皆さんにとっても先生方にとっても、そして学校にとってもいろいろなことがあり、そしてその一つ一つを乗り越えることにより、皆さんは少しずつ確かな成長を続けてきたと確信します。

終業式にあたり、「努力は人を裏切らない」というお話をします。

先日、大会で目標を達成できなかった人が大変残念がっていました。試合である以上、勝者がいて敗者がいる。結果が出るのは当然のことです。一方で、その結果と同じくらい、あるいはそれ以上に重要なことは、そこに至るまでどれだけ努力をしたのかということではないでしょうか。

総体ではその結果に裏切られたかもしれないけれども、今まで本当に努力してきたのなら、その努力は必ず違う形であなたたちに返ってきます。

これからの中学校生活、受験、あるいはこれから生きていく中での「自信」という言葉かもしれません。

これから君たちの長い人生において、何かしら目標を持つことはたくさんあります。

目標に向かって努力しないで達成するなどということはあり得ないし、人生はそれほど甘いものではありません。

目標に向かって努力する大変さや楽しさを知っている人は強いです。すぐに結果が出ることもそうでないこともあります。結果が出

ないことの辛さや苦しさに耐え、努力を続けていれば必ず自分の力
となって返ってきます。

努力は人を決して裏切りません。

相田みつをさんの詩を紹介します。

「小さな一歩」

歩幅に多少の差はあるけれど

一回に出せる足は

だれでも一歩だ

一回に五歩も十歩も出すわけにはゆかぬ

いま、この一歩を具体的に しかも確実に出すことだ

この小さな一歩の連続が 夢や希望・目標の実現につづく

その反対、

ぼんやり過ごす一日

いいわけとぐちで過ごす一日

その連続で日がくれる

そういう人生もあるからな

一歩が大事

どんなに小さくても いま、この 具体的な一歩が大事、

何かを心に決めよう、

そして続けよう、

本物は続く

続ければ本物になる。

夏休みを計画的に過ごし、9月2日（月）、心も体も一回り大きくな
った皆さんに会えるのを楽しみにしています。